

▼INDEX▼

■【お知らせ】
・新連載企画「オールカンサニッポン！NEO！」をはじめます
■【内部監査情報】
・2024年度内部監査（競争的研究費及び標準会計監査）を実施中です
・2024年度内部監査（業務の DX 化に関する監査）を実施中です
■【会計監査人監査情報】
・2024年度会計監査人による部局往査を実施中です
■【監査ニュース】
2024年9月
・「学校・大学」勤務 11%は高ストレス判定 【9/4 読売新聞】 他4件
2024年10月
・北大冷遇一部是正へ 准教授 学生指導除外 根拠なく【10/4 毎日新聞】 他14件
■【連載企画 NEO】
・研究費の適正な使用の推進のための行動規範
■【Audit Cafe】
・スポーツ観戦記2

表題写真 みちのく湖畔公園のコキア

お 知 ら せ

これまで、連載企画として「オールカンサニッポン！」と掲載しておりましたが、今回から新連載企画として「オールカンサニッポン！NEO」が始まります。

「オールカンサニッポン！」では内部監査の結果などを踏まえ、会計や労務管理や決裁文書などについてのルールをわかりやすく説明してきましたが、内容が事務向けとなってしまうことが多くなっていたように思います。そこで、「オールカンサニッポン！NEO」では主に研究者に向けた内容に特化し、各種ルールの解説や事例紹介等をしていきたいと思います！



「オールカンサニッポン！」も引き続き掲載いたしますので、「オールカンサニッポン！NEO」ともどもご愛読くださいますようお願いいたします。





内部監査情報

・2024年度内部監査（競争的研究費及び標準会計監査並びにフォローアップ監査）を実施中です

「競争的研究費及び標準会計監査」は、2023年度に執行した科学研究費助成事業（科学研究費補助金）や受託研究費等の競争的研究費の監査と会計手続全般に係る標準会計監査です。 監査項目として、会計事務全般の内部統制、公的研究費の不正防止、物件費の取扱い及び旅費・謝金・人件費の取扱い等について確認します。 また、書類上の調査だけではなく、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」への対応及び「科研費ハンドブック（研究機関用）」等に定める特別監査として、研究者ヒアリング、非常勤雇用者ヒアリング及び物品の実査も行います。

「フォローアップ監査」の監査対象事項は、2023年度に実施した内部監査(競争的資金及び標準会計監査)に係る内部監査報告書において、指摘事項（改善事項）として記載された事項となります。

なお、実地監査が終了した部局につきましても、追加で確認させていただく事項もあるかと思いますので、引き続きご協力のほど、宜しくお願いいたします。

・2024年度内部監査（業務の DX 化に関する監査）を実施中です

「業務の DX 化に関する監査」では、令和2年6月1日付で発出された「東北大学オンライン事務化宣言」を受け実施されている業務のDX化の進捗状況について監査を実施するものです。監査項目として、電子決裁及び電子保存の導入状況、テレワークの実施状況、申請・承認方法及び勤務状況確認方法等、フレックスタイム制の利用状況、申請・承認方法及び勤怠管理方法等並びに業務の DX 化に関する状況確認を行います。

実地監査が終了した部局につきましても、追加で確認させていただく事項もあるかと思いますので、引き続きご協力のほど、宜しくお願いいたします。



会計監査人監査情報

・2024年度会計監査人による部局往査を実施中です

会計監査人である有限責任監査法人トーマツによる部局往査が実施されております。 部局往査の内容としては、部局内の支払（債務計上）や入金（債権計上）などの各取引に関する手続きフロー、固定資産の管理に関する手続きフロー、人事給与に関する手続きフロー、現金等有価物の管理に関する手続きフロー及び統制手続き全般について、その有効性を確認するために、事前に会計監査人が抽出した伝票等の閲覧やヒアリングを実施いたします。

往査対象となった部局におかれましては、ご協力の程よろしくお願いいたします。

【会計監査人監査】の詳細は、コチラ↓

https://www.bureau.tohoku.ac.jp/audit/3-3index.html （概要）

監査ニュース

2024年9月

・「学校・大学」勤務 11%は高ストレス判定 【9/4 読売新聞】
・未払いの時間外手当 8 億円超分割支給へ 【9/6 産経新聞】
・山形大入試問題 物理化学でミス 全員正解に 【9/6 毎日新聞】
・セクハラで出勤停止処分 【9/18 河北新報】
・日大 2 部活で不適切な徴収 陸上、スケート部 【9/19 読売新聞】

2024年10月

・北大冷遇一部是正へ 准教授 学生指導除外 根拠なく【10/4 毎日新聞】
・琉球大教授 不正に寄附受領か 講師推薦の対価？ 【10/5 毎日新聞】
・日大不正徴収、被害総額 1 億円超 【10/12 産経新聞】
・論文不正「研究費 2145 万円は不正受給」【10/12 産経新聞】
・宮教大 50 代教授 盗撮で懲戒処分 出勤停止 3 か月 【10/12 河北新報】
・芋煮会場でガスボンベ爆発、5 人けが 【10/13 河北新報】
・傷害の疑いで男逮捕、否認（大学院生） 【10/14 河北新報】
・不同意わいせつ容疑 宮城学院大 元教授の男逮捕 【10/17 河北新報】
・北社学園 元教授雇い止め 賠償訴訟が結審 【10/18 河北新報】
・理系研究者 8 人に 1 人雇い止め 学術団体調査 無期転換ルール骨抜き 【10/19 毎日新聞】
・全理事・監事 引責辞任（東京女子医科大学） 【10/20 読売新聞】
・秋田大病院 2 看護師処分 【10/24 河北新報】
・日大・東京女子医大 補助金保留 【10/25 朝日新聞】
・女子医や日大 助成金「保留」 私学事業団 【10/25 読売新聞】
・学生時代の逮捕 実名掲載 X 社に投稿の削除命令 大阪地裁 【10/25 朝日新聞】

連 載 企 画



毎回、研究第一主義のラジオパーソナリティ・カンサー教授が
若手研究者からのお便りを取り上げ、
研究者の心得について一緒に学んでいく深夜ラジオ。
第1回目のテーマは、「研究費の適正な使用の推進のための行動規範」です。

ALLKANSANIPPON NEO ALLKANSANIPPON NEO ALLKANSANIPPON NEO ALLKANSANIPPON NEO ALLKANSANIPPON NEO


カンサー教授

いよいよはじまったぞ！オールカンサニッポン！NEO！
RP（ラジオパーソナリティ）はワシ、カンサー教授じゃ。さっそくリスナーの若手研究者からのお便りを紹介するぞ。ラジオネーム、研一さんから「研究費の適正な使用の必要性について教えてください」といただいた。よしっ！若者にも、若者でない者にもわかるよう、ワシがわかりやすく説明しよう。



・現在、内部監査を実施しておって、一部の教員の方には「研究者ヒアリング」へご協力をいただいておるが、冒頭に「文部科学大臣決定の『研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）』において、実施を求められているので協力をお願いする。」旨の断りをしてヒアリングをしておる。
・そのガイドラインに研究費の適正な使用の必要性が記載されているので説明するぞ。



・ガイドラインは、文部科学省において平成19年に策定され、以降2度改正が重ねられ令和3年改正が最新版となっている。
（ https://www.mext.go.jp/content/210201-mxt_sinkou02-1343904_21_1.pdf ）
・策定以前からカラ出張やカラ謝金等、研究費不正事案が全国的にあったことから、同省において、同省と同省所管の独立行政法人から配分される公募型の研究資金について、配分先の機関がそれら資金を適正に管理するために必要な事項を示すことを目的としてガイドラインが策定されたのじゃ。



・このガイドラインを受けて本学を始め多くの研究機関や大学などで、公的研究資金の不正使用防止に関する取組が行われている。主な事項は以下のとおりじゃ。

1. 規則の整備：研究費の適正な使用を確保するために、内部規則やガイドラインを整備
2. 教育と啓発：研究者などに対して、e-learning 等を利用したコンプライアンス教育や啓発活動の実施
3. 監査とモニタリング：内部監査や外部監査を通じて、定期的にチェックすることによる不正使用の早期発見と防止
4. 通報制度の整備：不正使用の疑いがある場合に通報できる窓口を設置し、通報者の保護を図る制度の整備
5. 責任体制の明確化：研究費の管理責任を明確にして、各部門や担当者が適切に責任を果たす体制の整備

本学の取組
東北大学における研究費の適正な運営及び管理
（ https://www.bureau.tohoku.ac.jp/kenkyo/fb/grant/ ）



・不正使用が発覚した場合の影響は以下のとおりじゃ。
まず、**組織全体の信用失墜**が考えられる。国民の貴重な税金を原資とする研究費の不正使用は、国民の期待を裏切る行為であり、容赦なく社会の非難をうけ、その信用回復は容易ではなく、所属する個人にも重大な影響を与えるじゃろう。
また、研究者個人に対する措置も発生する。**機関内での人事処分、刑事告訴や民事訴訟、個人の氏名を含む調査結果の公表、配分機関からの研究費の一部又は全部の返還、申請及び参加資格の制限※等が行われる可能性があるのじゃ。**

※「競争的研究費の適正な執行に関する指針」（令和3年 12 月改正）
・私的流用を行った者に対する申請及び参加資格制限の厳罰化→10年
・私的流用以外の不正使用を行った者に対する申請及び参加資格制限の厳罰化・適正化→1～5年（不正使用の行為内容に応じて判断）
・善管注意義務違反に対する申請及び参加資格制限→最大2年



＝まとめ＝
・不正は隠蔽を伴って行われたとしても、納品検収体制などの不正防止対策、会計検査や告発などの様々な監視の目によりいずれ発覚するものじゃ。また隠蔽により発覚が遅れれば遅れるほど発覚時には機関の存在を揺るがしかねない大きなリスクとなって顕在化する。
・不正を防止するための仕組みは機関のマネジメントとして不可欠なもので、この仕組みがあることで教員等は不祥事発生など不測の事態から保護されておる。この事実をよくご理解いただき、仕組みが有効に機能するよう協力をお願いするものじゃ。
・高度にスピード化された情報化社会では、不正は組織全体の信用の低下に容易に繋がるものであり、当初は些細な気持ちで行った不正行為が組織全体に重大な影響を与えることになる。不正は自分一人の話では済まないことから、自らの行為が組織全体にどのような影響を及ぼすかを常に意識して、倫理的な行動を心がけるようお願いするものじゃ。



カンサー教授

ということで、今回は「研究費の適正な使用の推進のための行動規範」についてお伝えしたぞ。～

LLKANSANIPPON NEO ALLKANSANIPPON NEO ALLKANSANIPPON NEO ALLKANSANIPPON NEO ALLKANSANIPPON NEO

このコーナーでは研究者からの制度や会計ルール、事務手続きについての疑問・質問をお待ちしています。
日頃の研究の中でのちょっとした疑問（なんでこんな手続きが必要なのだろう）や、
いまさら教授や先輩研究者に聞けないけれど、実はよく理解できていないことなど、
いただいたご質問には出来る限り誠意をもってお答えします！
事務の方々からも「これについて研究者の方々になかなか理解してもらえないんだよな」といったことがあればご意見をお寄せください。



Audit Cafe

毎月、監査室のスタッフが交代で「つぶやく」このコーナー！
今回のつぶやきは、「スポーツ観戦記２」と言うお題のようです。
いったいどんな話になることやら・・・。



まずはアメフトから、
以前、話題にした『パインボウル』(北日本大学王座決定戦)は、北海道学連と東北学連の代表校との間で行われる試合で、2022 年度まで行われたが、2023 年度からトーナメント方式の変更で、それぞれのリーグ 1 位が全日本大学アメリカンフットボール選手権に出場することになった。

東北 1 位の東北大学ホーネッツは、11 月 17 日の 2 回戦から登場し、『角田ボウル』として角田市陸上競技場で行われた中四国 1 位の広島大学との対戦で 56-7 と圧勝していた。

そして 11 月 24 日、準々決勝が『AOBA ボウル』としてユアスタで行われ、東北大学ホーネッツは関西リーグ 1 位の立命館大学パンサーズと対戦したが、結果は 3-56 で完敗だった。
後半、見事に決まったタッチダウンシーンが、フォルススタートの判定で無効になったのは残念でした。



大学選手権での関西の大学との対戦は以前の大会方式では考えられないカードで、2021 年度までは北日本を制すれば関東代表との準決勝に進出できて、そこに勝てば東日本代表として西日本代表との決勝戦（甲子園ボウル）に進む流れだったが、ホーネッツはこれまでも何度か準決勝までは進むものの、ことごとく関東の壁に跳ね返されてきていました。

今回のトーナメントの組み合わせで、関西 1 位が準々決勝の相手でしたが、関西リーグ同率優勝(6 連覇)の関西学院大学が立命館に敗れ、対戦成績で関西 2 位となったのは、個人的にはとても残念なことでした。

関学ファイターズのディレクターが昔からの友人であり、かつて東京ドームで行われていた『ライスボウル』(社会人×大学の日本一決定戦)に、関学が出場する時は必ず応援に行っていた。
いつかは甲子園ボウルで、ホーネッツと関学ファイターズが対戦することを夢見ていたので、そのカードがユアスタで見られるチャンスだった。同じトーナメント方式が来年も続き、念願の対戦が実現すれば最高だが。

その関学が 6 連覇中の今年の『甲子園ボウル』(選手権決勝)は 12 月 15 日に行われる。
準決勝のカードは立命館×早稲田、関学×法政となっており、結果次第では関西または関東同士の初の決勝となるが、関西同士(立命館)の対戦となって関学がリーグ戦のリベンジを果たせるか注目される。



次は、やっぱりラグビーで、
日本代表のヘッドコーチに 9 年ぶりにエディ・ジョーンズが復帰し、次回 W 杯 2027(オーストラリア)に向けて始動したばかりの 2 戦目が 7 月 13 日にユアスタでジョージアを相手に行われた。

結果は 23-25 と惜敗で、対ジョージア戦では 10 年ぶりの敗退となったが、仙台で行われる代表戦は 15 年ぶりの開催で、入場者数は 15,903 人となかなか良い感じの盛り上がりだった。



10 月 26 日の日産スタジアムでのニュージーランド・オールブラックスとのテストマッチは生観戦を断念したが、一昨年の国立競技場での対戦(31-38)からの成長は疑問で、お互いにベストメンバーではなかったが点差(19-64)以上の差を感じた。

エディ・ジョーンズがヘッドコーチになってからのテストマッチは 4 勝 7 敗と、チーム作りはまだまだの段階で、12 月 21 日から開幕するリーグワン 2024-2025 に、今シーズンも海外から参加するメンバーが強力なので、ここでスキルを磨いて、代表のレベルアップが必須である。

その前に 12 月 1 日に大学ラグビー対抗戦、100 回目の『早明戦』が国立競技場で開催される。
今年は早大が王者帝京大に勝って全勝で絶好調、明治がその帝京大に敗れた 1 敗での激突となり、関東大学対抗戦グループの優勝が決まる大一番である。

両校とも、全国大学選手権の出場は決定しており、順位次第で選手権の組み合わせカードが決定するが、選手権での再戦が実現すれば、早明ファンにとっては最高の筋書きとなるのだが。

伝統的に、「タテ(突進)の明治、ヨコ(展開)の早稲田」「FW の明治、BK の早稲田」と言われているが、毎年両者の力は拮抗しており、過去の対戦成績は、対抗戦では早稲田 55 勝、明治 42 勝、引き分け 2 と早稲田優勢だが、全国大学選手権になると、明治 9 勝、早稲田 7 勝と逆に明治が勝ち越している。

早稲田は引き分け以上か負けても 7 点差以内なら優勝となる。一方、明治が優勝するためには勝利し、かつ 3 トライ以上の差をつけて勝ち点 6 を獲得する必要がある。

今年の下馬評では早稲田が有利だが、それが通じないのが早明戦であり、明治大学推しとしては、明治の意地に期待したい。

監査室S

最後までお読みいただきまして誠にありがとうございました。
引き続き、「おうでぃっとめーる」をどうぞよろしくお願い申し上げます。
バックナンバーは、監査室 WEB ページをご覧ください。

◆その他、各種お問い合わせは…

【電話でのお問い合わせ】
東北大学監査室
022-217-4874（監査室長：佐藤）
022-217-5680，4880（佐々木、齋藤、南部、國分、目黒）

【メールでのお問い合わせ】
東北大学監査室
kansa@grp.tohoku.ac.jp



メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。
© 2010 Audit Office Tohoku University